

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

- 本年度の標準化得点の目標値(5年生時の福岡県学力実態調査の結果より設定)
 国語A=90.4 国語B=80.3 算数A=89.1 算数B=82.1
- 児童質問項目「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えなかった児童の割合を減少させる。

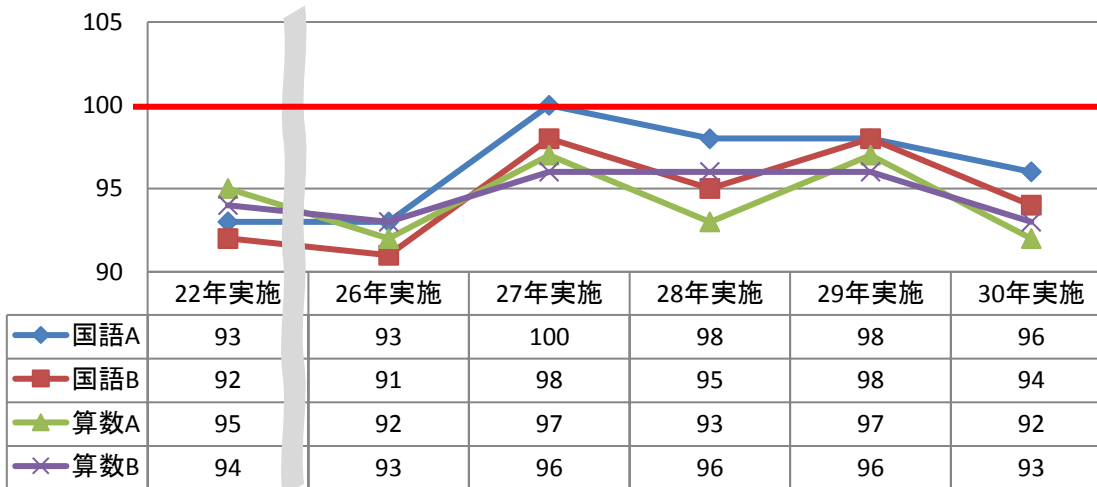
3.指標に向けての取組

- 「目的・観点・方法」を明確にし、1単位時間1回以上、自分の考えを「書く」活動を設定する。
- 終末適用問題における形成的評価をもとに、不十分な児童の補充学習を行い、その日の授業内容を確実に習得させる。
- 朝の学習活動において、家庭学習及びアシストシートやフォローアップシート等の解答・解説を行い、つまづいている部分の補充を行う。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	96	94	92.0	93
嘉麻市	97	99	97	98
全国	100	100	100	100

推移



5.各学校における分析

- 児童質問項目「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」児童が全国平均と県平均を上回っている。
(全国:18.1% 福岡県:16.9% 本校:27.3%)
- 国語A「文の中で漢字を使う(せつ備)を選択する」問題の正答率が全国平均と正答率を上回っている。(全国:82.2% 福岡県:82.4% 本校:83.7%)
- 児童質問項目「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」という児童は、全国平均と県平均を下回っている。(全国:70.6% 福岡県:71.6% 本校:47.7%)
- 児童質問項目「書くことを途中で諦める」児童は、全国平均と県平均を上回っている。
(全国:26.9% 福岡県:25.9% 本校:50.0%)
- 国語や算数の調査結果では、選択式の無回答率が低いものの、記述式での無回答率が高い。「時間が十分ではなかった」と答える児童が多く、問題の後半や時間のかかる記述式の問題で、無回答率が高くなっていた。
- 正答率が低かった問題
 - ・国語A「主語・術後の関係」「敬語」・国語B「内容の中心を明確にして書く」
 - ・算数A「 $12 \div 0.8$ の式となる問題の選択」・算数B「わけや求め方を書く問題」

6.各学校における今後の取組

- 朝の学習時間に専科教員が入り、児童のつまづきに応じた指導を行うことで、基礎基本の定着を図る。
- 日記や作文指導に専科教員も関わり、一人一人に丁寧な評価(コメント)を返すことで、書くことを途中で諦めない態度を育てる。
- 算数については、全単元を通して複数の教員体制で授業を行い、時間を意識した計算などの活動を取り入れる。
- 家庭学習強化週間を設け、家庭学習の習慣化を図り、宿題の提出率100%を目指す。また、自学強化週間や自学ノートの表彰を行うことで、学ぶ意欲の向上を図る。
- 中学校進学に向け、3学期に複数体制で算数の総復習を行う。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。
- 嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。
 - 短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。
 - 学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。
 - 指導と評価の一体化を図り、特に単元終末段階における習熟度別学習の充実を支援する。
 - 繰り返しの指導が計画的に実施されるよう、カリキュラムマネジメントを推進する。
 - 家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。
 - 主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。